

船舶事故調査報告書

令和2年9月16日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	浸水
発生日時	令和2年3月24日 15時45分ごろ
発生場所	広島県東広島市安芸津港沖 安芸津港防波堤灯台から真方位161° 1.6海里付近 (概位 北緯34° 17.4′ 東経132° 49.8′)
事故の概要	旅客フェリー第十五やえしまは、航行中、浸水した。
事故調査の経過	令和2年4月16日、主管調査官（広島事務所）を指名 原因関係者から意見聴取実施済
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等	旅客フェリー 第十五やえしま 372トン 131819、青雲商事有限会社、日光商事有限会社、個人所有、 安芸津フェリー株式会社（船舶管理人）
乗組員等に関する情報	船長、三級（航海） 機関長、三級（機関）
負傷者	なし
損傷	船体中央船底部外板に破口
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 東北東、風力 2、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 下げ潮の末期
事故の経過	<p>本船は、船長及び機関長ほか1人が乗り組み、旅客22人を乗せ、車両13台を積載して安芸津港に向け航行中、機関長が、機関室を巡視中にビルジの増加に気づき、各部を点検していると、船体中央付近の機関室下部の破口から浸水していることを発見して船長に報告した。</p> <p>本船は、16時00分ごろ、着棧し、旅客の下船、車両の積み下ろしを行った。</p> <p>本船は、修理業者が乗り込み、外側から船体外板の破口の鉄板溶接及び水中ボンドの塗布を行い、内側から機関室の破口付近を板で囲んで排水したところ、破口の周囲に腐食によるへこみが見られた。</p> <p>船長及び機関長は、本事故後、ドックに上架して機関室の破口の修理を行った際、機関室船底からボルトやナットが見つかり、機関室船底にボルトやナットが落ちた箇所に異種金属間による電気腐食が進んで破口が生じたと思った。</p>
分析	<p>本船は、航行中、船体中央付近の機関室の船体外板に破口を生じたことから、同破口から海水が流入して機関室に浸水したものと考えられる。</p> <p>本船は、機関室船底の機関室側から見た破口は、破口の周囲に腐食と思われるへこみがあり、機関室のビルジの中にボルトやナットが見</p>

	<p>つかったことから、異種金属間による腐食が進んで破口が生じた可能性があるものと考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、本船が、機関室のビルジの中に金属製の落下物がある状態で航行中、船体中央付近の機関室の船底外板に破口を生じたため、同破口から海水が流入して機関室に浸水したものと考えられる。</p>
再発防止策	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 定期検査及び中間検査の入渠時には船底外板内側の塗装の状況を確認するとともに、ビルジを清掃し、船底外板内側への落下物を回収すること。